昭和の劇文学の全貌

岸田國士

青空文庫

元来、戯曲は舞台で演ぜられるために書かれたものであるが、活字として読まれることも今日では考へなくてはならない。

戯曲作家は、さういふ理由から、いつでも自分の作品を、この二つの発表形式の上に成り立たせようとする。

西洋でも、劇文学は古いギリシャの時代から存在はしたけれども、劇詩人の作品が活字で読まれるやうになつたのは、ごく近代のことである。日本でも、近松や黙阿弥が読まれるといふのは、まづ、国文学の文献としてであらう。

大正昭和の頃になつて、今度は逆に、上演のあてもなく、雑誌に発表するためにのみ戯曲を書く傾向が生れた。しかも、それにも拘はらず、この時代に、戯曲の本質的な発展、進化が見られたのは面白い。

それは、言ふまでもなく、劇文学の創造が、新しい演劇運動と足並を揃へてゐたからである。

この集に収められてゐる作品は、昭和年代のいくつかの主要な演劇運動の流れのなかで、それぞれ作家としての成長を遂げた優れた才能の所産であり、いづれも、良心的な舞台にかけられ、しかも、画期的な成功をかち得た幸運な作品ばかりである。

同時代に、これらの作家と肩をならべ、記念すべき業績を残した、なほいくたりかの作家がないことはない。

昭和の劇文学の全貌は、少くともう一、二巻を割かなければ窺ひ知ることは無理のやうである。が、それにも拘はらず、この全集の性格が明らかに、昭和の文壇ジャーナリスムの傾向を代表するものである限り、その間に占める戯曲文学の地位からみて、この巻の編集意図はまさに象徴的である。

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集28」岩波書店
　　1992（平成4）年6月17日発行
底本の親本：「昭和文学全集第二十四巻（昭和戯曲集）　月報第二十四号」角川書店
　　1953（昭和28）年11月10日発行
初出：「昭和文学全集第二十四巻（昭和戯曲集）　月報第二十四号」角川書店
　　1953（昭和28）年11月10日発行
入力：門田裕志
校正：noriko saito
2011年2月19日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

昭和の劇文学の全貌

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/